

一太郎が新しくなった！ 一太郎のすごいところガイド

コンピュータに興味は持ってるけど……って人へ

by Kazutaro V.5

一太郎というのは、パソコンで使うワープロのソフトウェアです。コンピュータは使ったことはなくても一太郎という言葉は聞いたことがあるのではないかと思います。その一太郎が、この4月に新しくなりました。今回から連載で、新しくなった一太郎の機能を紹介しつつ、コンピュータの基本的な知識についても書けることができれば なんて たいそうなことを考えています。

第1回 堅い話 (主にハードウェアについて)

4月24日、待ちに待った一太郎のニューバージョンの発売日だ。土曜日だったので、仕事を終わると速攻で枚方のジョーシン電機へ行った。この店では店頭でバージョンアップできるのだ。あ、バージョンアップってのは、従来の一太郎 (バージョン4.3) を使っていた人が、新規で買うより安く買えることをいう。コンピュータソフト業界の慣例なわけやね。

で、さっそく開封。ディスクは14枚入り。噂に違わぬヘビーぶりだ。今回の一太郎はハードディスク必須、メモリ増設も (多くの機種で) 必須というマンモスソフトである。

私の家のコンピュータ (エフソン386GE) で動くかどうか不安だったが、

考えながら原稿を打つ程度なら支障はないようだ。

さて今回は一太郎とコンピュータの関係やコンピュータの装備について、お話ししていきたいと思います。

まずコンピュータはハードウェアといい、一太郎は、そのハードウェアという土台の上で動くソフトウェアです。まあファミコンとファミコンのソフトの関係と同じですね。

で、ファミコンの場合は、ソフト側がハード側になにか注文を付けるというケース (たとえばディスクシステムがいるとか) は、あまりありませんが、パソコンの場合は、たまにあります。

一太郎は

1. 新しいCPU……頭の回転
2. 多くのメモリ……頭の切れ
3. 多くのハードディスク……記憶
4. その他周辺機器（プリンタ・モニタ等）

を要求しています。

まずCPUですが、NECの98シリーズの場合、多くはインテルという会社のCPUを用いています。CPUのうちゅうのは、まあ脳みその中心部ですね。

286→386SX→386DX→486SX→486DX→(ペンティアム)という風に賢くなっていきます。

さらにCPUにはクロック周波数という速さの表示もあって、16MHzとか25MHzとかで表します。クロックの値が大きければ大きいほど切れのよい（計算スピードの速い）頭になっていきます。

ですからコンピュータを購入するときには、財布と相談してできるだけ賢く切れのよいCPUの載ったやつを買うことです。私のコンピュータのCPUは386SXの16MHzですが、一太郎の最新機能を快適に使うには、ちょっと力不足ですね。

今、286や386のCPUに部品をつけ加えて、486に変えることが流行りのようです。うちの職場でもやってみました。まずまずの効果があるようです（でも頭だけ賢くしても、データを伝える神経がついていかない

ことも多い）。

つぎにメモリですが、これは今発売されている機種では最低でも640キロバイトKB、普通は1.6MメガバイトB（1600KB）以上搭載されています。メモリというのは、一時的な記憶領域で、人で言う短期記憶とえばよいでしょうか。これも多ければ多いほど快適に動きまゝす。一太郎は最低でも2.6MB要求しています。まあ実際は4MBくらいはあった方がよいでしょうね。

となると増設せなあきません。

メモリ増設には、2通りあって、コンピュータ内部に取り付けるタイプとコンピュータ本体の裏側から差し込むタイプがあります。前者を内部増設、後者を外部増設（スロット増設）といいます。内部増設の方は、増設がめんどくさいですが、スピードが格段に速いので、絶対に内部増設がおすすめですね。値段も外部増設より安いです。

3つめはハードディスクです。これは外部記憶装置と呼ばれる装置の一種で、人で言うと、長期記憶、または記録のためのノートに当たります。パソコン創世記はカセットテープ。次の代がフロッピーディスク。そして今の主流はハードディスクです。昔は高価でしたが、現在はかなり安くなっています。一太郎だけなら80MBあれば充分ですが、これからいろいろなソフトやデータが増えていくことを考えると、大きめのを買っておいて損はないでし

よう。

最後に周辺機器ですが、特に言っておきたいことは、プリンタのことです。プリンタはワープロ専用機でもご存じの通り、最後の打ち出しに使います。今回の一太郎は、良いプリンタは、より綺麗に打ち出すことができるようになりました。

プリンタは、打ち出し方によって、色々な種類があります。昔ながらのドットプリンタ（メチャうるさいタイプ）、ワープロ専用機でよく使われている熱転写プリンタ（リボンを使うタイプ）、インクを飛ばすインクジェットプリンタ（バブルジェットプリンタ）、コピー機と同じ原理のページプリンタ（レーザープリンタ）等です。

この中では、ぜひ、ページプリンタをおすすめします。ページプリンタの多くは内部にアウトラインフォントを持っています。アウトラインとは、輪郭データのことです。要はギザギザの無い様々な大きさの文字を打ち出すことができます。今までの一太郎は、その機能を充分に使っていませんでしたが、今回からはプリンタの機能を最大限に活用するようになっています。

「良いプリンタは、より綺麗に打ち出すことができるようになりました」というのは、こういう理由です。

あと周辺機器ではディスプレイもこれから発展していく分野ではありますが、私自身が勉強中ですので、それはまた後ほど機会があれば書いてみたいと思います。

さて、長々と書いてきましたが、一太郎の要求するハードウェアについて見当がつかまりましたでしょうか。

一太郎は従来の（日本の）コンピュータソフトに比べて、かなり贅沢な要求をしています。これについて一太郎の開発元のジャストシステムは、

『現在普及しているハードで動くソフトを作っていたのでは、ハードウェアの進歩について行けない。数年先のことを考えてつくった』

というようなコメントを出しています。ハードの進歩のスパンがソフトのバージョンアップのスパンよりも短いということと、ソフトがハードを引っ張って行くんだというナンバー1メーカーの自信の両面からの発言だと思います。後者については慢心だという捉え方もできますが、私は素直にジャストシステムの考えを受け入れたいと思います。

今回はハードなお話が多く、けっきょく一太郎自身の話は来月ということになりました。

しかし、まあ、今回の原稿は新しい一太郎で打っていますので、従来の一太郎をご存じの方は、新機能を使ったところを探してみてください。

第1回 おわり

来月に続く（と思う、たぶん）